

# フレールベル自傳

(第九回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

倉橋惣三 譯

六十五、自由な地位

以上が私の教師としての最初の試みの結果でありました。自分の善き計畫のためよりも私に與へられた恩寵と賞讃とが、又實際的の行動よりも私の熱誠の炎が、眞の教育の性質に就て深くも尋ね入るやうに私を勵ましました。

けれども大きな學校の全組織には前々から時間と學課とを案配した教授案があつてすべてのことは時計の仕掛のやうにその場所に適合すべくそれ相當な形式が備つて居ります、然るに私の組織は敏き感覺と眼覺めたる智性とに訴へるばかりであり、定つた形式はそれに活氣を添へ生氣を加ふる點に於てのみ私の教育の意見を是認いたしま

す。けれども私は私の生涯の中に如何に活氣ある生活も若しその活氣と生氣とが適當に理解され常に促進せしめられなければ直ぐに骨々しい頑固に硬ばつてしまふといふことを不幸にも幾度も幾度も實驗いたしました。

充分に眼覺めた私の心はそれが必要であつたにせよ是等の定つた形式に拘泥することが出来ませんでした、而して私は私の生と私の心との發展の必要に關して自由に私の性質を延ばして行くことの出来る地位を探さなければならぬと感じました

六十六、アルンドの「修養雜話」

外的範圍の制限に従ふことの出来ない生と心の憧憬的努力は購ひ求めたアルンドの「修養雜話」

に親しむやうになつてから益々激しくなつて來ました。

この本は直ちに私の人格、私の決心、私の所志に合致しました、而して今まで私の心内に遊離してゐた所のものはこの本の頁を通じて秩序ある結合に持ち來されました、同時に私を領してゐた私の氣附かなかつた意志はこの本がそれを明かにするに従つて定まつた形式と表現とを取りました、事實、私はその頃アルンドの著書を教育の經典の如くに思つて居りました。

その頃には私は私の生活及び私の目的に就て次のやうに語りました。

「私は神の地に立ち、深く自然に根ざし、而かも頭を天に沖おほらして絶間なき注視を以てその祕密を讀み、その心は地と天との兩つながらを抱き、種々の形體に富む地と自然との生活を樂しみ、而して同時に神の地と神の天とを愛に於て結合する天の純潔と平和とを認める人々を教育したい」

是等の言葉の中に私は今私の前に開陳された私の以前の生活と目的とを繪に描いたやうに明瞭に見ます。

模範學校の職任から逃れたいといふ願望が少しづつ、私の心内に力を得て來ました、模範學校へは私は教師として少くも三年は結び付けられて居りました。

私が既に記名した校長（グリーンネル）は私のやうな激し易い人間は彼の管理するやうな學校では調子よく働いて行くことが出來ないといふことを知りませんでした。乃で私は適當な後任者を供給する約束で私の職を解いて貰ひました。

運命は又私に幸でありました。

六十七、佛蘭西語研究

私はそれまで長い間親しく文通してゐた若い家庭教師に氣が附きました、その人は私に缺けてゐる諸種の資格を備へて居りました。

その人は當に國語（獨逸語）の文法に精通してゐたのみならず、古語の文法にも暗くありませんでした、而して確か佛蘭西語も出來たと思ひます

その人は私の誇り得る何物よりも深く地理學を知つて居りました、歴史を知つて居りました、算術が出來ました、植物學も少しは知つて居りました——實際思つたより遙かに豪い人でありました而して以上のすべてよりもつと値打のあることはその人は智にも情にも生活にも元氣が充満してゐたといふことです。

それ故學校は私の退去によつてあらゆる點に於て利益を得ました、それ以來もう改革を行ふ必要を認めない位にまで學校に取つては利益でありました、この同じ教師が今でも（一八二七年）生きてゐて同じ職務に働いて居ります。

私が私の生涯の新しい章を始める前に記さなくてはならぬことが尙少し許あります。

佛蘭西語の智識は當時なくてはならぬものとき

れて居りました、佛蘭西語を知らないといふことはその人を直ちに修養の極く低い階級に屬させてしまひました。

それ故に佛蘭西語の智識を得るといふことは當時私の主なる目的の一となりました。

幸ひにして私は佛蘭西生れのエム、パーロールといふ年は取つてゐますが國語の研究に熱心な而して巧みに獨逸語を書いたり話したりする又と得られない佛蘭西語の先生に教へを受けました。

私は一日に二度づゝ勉強して熱心に研究を續けました、何故ならば私は或る期間までにいつぱし佛蘭西語が話せるやうになりたいと思つたからであります。

併しながら私の進みは遅くありました、何故ならば佛蘭西語を學ぶための橋梁となるべき獨逸語の智識が充分でなかつたからであります。

六十八、誤れる語學習得法

私は私に緊切した意味で充分に理解されなかつ

たことを本當に習得することは出来ませんでした  
而してそれがために私はこの研究に費した混り  
氣のない熱心と驚くべき費用とに相應するやうな  
結果を得ることは出来ませんでした、けれども私  
はかなり習ひました、私がある頃如何に利用すべ  
きかを知つてゐたよりもつと多く習ひました。

私の先生は佛蘭西語研究のすべての平凡な文法  
的困難を片隅に押しやつて置いて國語をきたたも  
のとして授けることを念として居りました。

けれども語學に對して無知な私はこの自由なる  
教授方法に遺憾なく従つて行くことが出来ません  
でした、而してそれにも拘らず私は先生がその仕  
事の意味と方法とを充分に了解してゐると信じて  
居りました、而して私は常にこのために悦んで練  
習を怠りませんでした。

先生は殊に佛蘭西語の發音を私の耳に馴らすこ  
とに於て巧妙でありました、先生は何時いつも佛蘭西  
語の發音をその單純な音と調子とに分解し、類別

し、決して唯單に、これは獨逸語のペーと同じに  
發音するのであるとか、ペーに似てゐるとか、エ  
ーだとか、オエーだとか云ふだけではなかつたの  
であります。

この研究の課程から生じた最上の事柄は獨逸語  
の文法に關する私の無知の遺憾なき暴露でありま  
した。

私は生活と相互連結若くは論理的の斷案をも獨  
逸語文法の中に持ち來さうとして著名な獨逸語文  
法家の著書を熟讀したことを正直にお話しなけれ  
ばなりません、けれども私はそれによつて益々私  
自身を困惑させたばかりであります。

或る文法家が説く所は他の文法家の説く所と丁  
度正反對でありました、而して私の知つてゐた範  
圍では是等の文法諸家の中誰一人として言語その  
もの、生命と自然とから定理を抽き出したものは  
ありませんでした。

私は再び落膽して獨逸文法家から離れました、

而して更らに自己の路を辿りました。けれども悲しい哉文法の乾涸した規則は私の意志に逆つて私の知覺を暗まし鱗のやうに私の眼を蔽ひました。私は如何してもこの形式から逃れることが出来ませんでした、而してそれはその時以來長く私に禍して居ります。

規則を知れば知る程それは私を硬張らせ又壓倒しました。

六十九、家庭教師の後任者なし

私が學校を去るといふ事は今や取極められました。而して私は自由に、縛られずにその發達を私の心に追及させることが出来ました。

これまで通り、親切な運命はその時も又私を助けてくれました、私はそれに對して感謝し切れないのであります。

私がそれまで算術と國語とを個人的に教へてゐた三人の少年は今までの教師が去るので他に新しく教師を迎へねばなりません。

私の知人の中から彼等に適した教授者兼教育者を一人探してくれと私を見込んで頼まれました、何故ならば私は皆の中で一番よく彼等の性質とその缺點とを飲込んで居りましたから。

私自身に就て言へばこの家庭教師の仕事は私の考とは掛け離れて居りました。而して私はそこであらゆる方面を熱心に誰か適當な人はないかと思つて探しました。

幾人もの中で私は私の長兄に教育者としての缺くべからざる要件に關する私の意見を示して訴へてみました。

長兄は甚だ明解に且つ簡單に返事を寄越ししました。長兄は私の示した要件に適ふやふな教授者兼教育者を私に推薦することは出来ない又決してそんな人を私を得ることは出来まいと思ふ、何故ならば若し豊かな智識と外的方面に於て生活の經驗を持つてゐる人が見附つたとしてもその人はその人自身の力ある内的生活に於て將又その内的生活

をその人自身の内に又その人の生徒の内に認め而してこれを育て行く力に於いて欠けてゐるであらう。それから又この力を持つてゐる人があつたにせよその人は初に擧げたやうな實際的資質に乏しいであらうと言つてよこしました。

私は私の奔走の結果を知らせました。

それがために少年の両親は非常に落膽しました併し苟くも少年達の幸福が愛と眞實とを持つて眞劍に求められ、而して又當時得らるゝ至高至善のものも彼等のために要求されて居たならば如何しても私の思つた通りの教師を選ばなければならぬのであります。

家族の人々は私が自由と獨立とを愛するのを知つてゐますので無理に私をその位置に止めやうとはしませんでした。

七十、少年の愛情と母親の信用と

斯くてこのまゝ數ヶ月は経ちました。遂に少年に對する私の強い愛情と教育といふことを全然私

に任せてゐる母親の信用とに報ゐんとする私の心遣ひとに動かされて私は両親の立場から彼等を見ることに努めました、これは遂に私自身を少年達の教育者兼教授者たらしむる決斷に私を導いて行きました。

自ら苦しみ藻掻き、長い間苦しさを堪へ忍んだ後私は私の決心を明にしました。

それは喜んで迎へられました、而して私に如上の決心をさせたその心持を以て理解されました。

私は依然最も親しい關係を保つてゐたグリューネルに私の所決を知らせました、彼は非常な驚きを以て私を見ました、而して「貴君は長い間探し求め、待ち設けてゐた地位に達すべきあらゆる望みを失つてしまふでせう」と言ひました。

私はチャンと契約證書に依つて私の地位と他に對する私の關係とに關して私自身を防護することが出来ると答へてやりました。

これに對して或る經驗家が遣り返して「貴君が

しつかり取極めたすべての條件の中一つでも認められないなぞといふことがないやうに確かに而してすべての事が几帳面に充たされるでせう、がそれでも尙貴君はすべての點に於て失敗して居ることが分るでせう」と言ひました。

抜目のない経験家は斯う話しました、而して私はそれに對して何と言はなくてはならなかつたでせうか。私は是等の子供の教育の必要と欠乏とに就て話しました、彼は「成程、しかし貴君は貴君自身の教育の必要と欠乏とを問題にしてはゐないのでですか」と言ひました。

これは如何に私を恥ぢしめたでせう、通常の考へで這麼ことが言へたものでせうか、私は之を辯駁することも出来ませんでした。私達はもうそれ以上この事に就て話しませんでした。

#### 七十二、不斷の争闘の公開式

而してこの決斷と私のこの決心とを固めるために内的の苦悶が激しくありましたが新しい地位に

入つて行かうとする外的の苦悶も等しく鋭いものでありました。

私達の約束には則ち二つの不易な條件がありました。

一つは私は決して生徒と共に都に住むことを肯じないといふことでありましたが、而して私が私の職務を始めた時に私の生徒は何等の制限もなく全然私の手に委ねられることでありました、生徒等が私に従つて田舎へ行くことでありました。而して其處で限られた完全な隔離せられた一團を作り彼等が都會生活に立歸る時こそは敎訓者としての私の職責が終る時でなければならぬと云ふことでありました。

私の新生涯を始むべき時が近附いて來ました。

私と私の生徒の入るべき注文の住家が未だ用意されてゐなかつたので私は數日間生徒と共にその都の家に假の住居をする事になりました。

けれども私は始めに於て嚴格の些かの欠乏でも

私の全教育計畫を害ふことの明かなるを感じてゐましたので私は嚴格に構へて居りました、而して片意地な我儘な頑固なものと言はれるのをも關はずに私はこの特徴を身に備へました。

私の地位の僭取が鋭い争闘に伴はれたといふことは私に取つて甚だよい而して健全な教訓でありました。

それは私に取つてはこれから執るべき永久不斷の争闘を伴ふ地位と仕事の適當な公開式でありました。けれどもこの家族とそのすべての人々に關して云ふならば私が決心を屈せずに保持して行つたといふことは彼等に非常によい結果を與へました、其後私がこの地位を去つてずつと後のことではあります私に家族の人々の理解と賞讃とを得ました。

それは十年か十一年後のことでありました——即ち私が去つてから四年か五年になります——少年達の母親は私が私の職務の中に現した確乎たる

忍耐力を言葉を極めて賞讃しました。

七十二、世間を知る

一八〇七年の七月私は私の教育の仕事の新しい範圍に入りました。私は歲月の經る所では二十五歳になりました、けれども私の人格の進展に關しては尙數年若くありました。私は自分でそれだけ年を取つてゐると感じませんでしたし又私の年に關する概念をも識認をも持つては居りませんでした。私はたゞ私の生活の力と争闘、私の心的修養の範圍、世間に於ける私の經驗した事柄を自覺してゐたゞけです、而して殊に——何といつたものでせうか——外的世界に即しては何のたよりもならないといふ所から見て私の修養の腑甲斐なさ  
と停滞した状態とに自覺したばかりです、生活の眞の有様とその外部に於てそれが如何に現はされてゐるかといふことの兩つながらに關して私が無知であつたといふことを自覺したばかりです。

私の修養の状態はその時以來私自身がすべて既



存の諸方法と矛盾し反對してゐる所から私を争闘の中に投げ込む役目をしたばかりです、而してその結果として私の家庭教師としての生涯の全部は一つの間斷無き争ひでありました。

極くの始めからこれが私の定められた運命であつたといふことは私に取つて有利なことでありました。

それ故私はこの時以來慰安と鼓舞とのために「お前はそれが如何なつて行くかを前々から知つてゐた」といふことが出来ました。而かも不快が稀に豫期されたるまゝの形をして到着します、而して豫期しない者は常にそれを忍ぶのに最も困難を感じます。

右の事に就ては私は上に述べたやうであります、私の境遇は打ち克ち難い困難を含んでゐるやうに見えました。

私は不完全な修養の中に是等の困難の根底を求めました、而して私が得た所の修養の孤立的の性

質の原因は私の見た所では私の大學生活を害うた所の障礙の中に横つて居ります。

七十三、更に大學に學ばんとす

併し私は教育者兼教授者になり而してそれを續けて行かうと決心しました。而して私は私自身の感情と私自身の力とを知ることが出来た上は人間及びその性質及び當時分りかけて來た關係に對する考へを根底として他に頼らない自由な私自身の流儀により私の職務のために義務として盡し又それを喜んでしました。然かも人といふものは己を知るといふことを最も難いこととして居ります。殊に私の場合に於てそれは一層困難であります、私は自身外部からの援助を求めなければなりません、而して私の要する智識と經驗とを他人から得やうと試みなくてはならぬといふやうに考へ始めました。

斯くて私は私の教育的企圖の創始者、主唱者、管理者となるべく再び大學へ行つて研究を續け自

身に箔を付けやうと考へました、けれどもこの事は私が進んで行つた教育の道からは離れてゐることが考へられなければならぬのであります。

扱て教育の不完全といふことが私を壓した時に私は昔のやうに圖らずも學校が私に教へてくれた自然なるものに援助を求めたのみならず私は教育教授の分野を異つた科學に分割しこれに豊富な文學の援助を加へた私の同輩の助けをも求めましたこの助けの缺乏が大層私を惱ませ壓倒しました而して私の全性質を非常な混亂に投げ入れましたそれがため私は心を決めて出来るだけ早くもう一度何處かの大學に入らう、それには兎も角出来るだけ早く教育者としての私の職業を放棄しやうと思ひました。

私は今まで重大事件はすべて兄と相談することになつてゐましたから私はこの時も例の如く兄に私の計畫と決心とを書き送りました。けれども今度は少くも私の性質は兄の助力を乞はずにその困

難を切り開いてゆくことが出来ました。

私は直きに私が私の地位を評價し害ひ又私自身を誤解したといふことに氣が付きました、乃で私は私の第一の手紙に對する兄の返書を得る前に私が大學に行くことを思ひ止つたこと並びに私の動かぬ決心は今では私の地位に止るといふことであると書いてやりました。

兄は私の決心を非常に悦びました、何故ならば今度は兄は私に同意することが出来なかつたからであります。